

## 国際協力特別賞

地球人になる！

千葉明德中学校 3年

林 愛里

久しぶりに祖父と散歩した。八十六歳だ。祖父の兄は学生の頃に戦地に駆り出され、フィリピン沖で撃沈され戦死したという。家族思いの自慢の兄だったそうだ。学生の頃書いた書が祖父の家に飾られている。意志のある力強い字だ。彼の人生は戦争によって奪われ、残された家族は深い悲しみを背負い続けた。身近なところに戦争が大きな爪痕を残していたことに気付き、ショックを受けた。

戦争は愚かで大きな損失だと思う。だれもが戦争の悲惨さを理解しているのに、今も世界のあちこちで紛争が起きている。国や人種、民族、宗教、政治的な意見が異なっても、命の大切さ、尊さは変わらないはずだ。同じ人間として違いを認め合い、尊重し合うことが、世界の幸せのために何よりも必要だと思う。

学校現場で起きているいじめも世界で起きている紛争と根っこは同じ気がする。相手が自分と違うことを理由に差別し、偏見で判断し、相手を傷つけ排除しようとする。周りは面倒なことに巻き込まれたくなくて、見ないふり、知らないふりをし、声を上げない。最初は誰でも自分と違うものに怖さを感じるかもしれない。だからこそ、相手が何を考え、どのような人なのか、直接話して相手を知ることが欠かせないと思う。

私は小学生の頃、二年間長野県の山村で、十七人の小中学生と一つ屋根の下で暮らした。出身地も性格もバラバラで最初は戸惑った。多数決をとらずにとことん話し合っただけで決めるルールだったので、一つのことを決めるのに何日も話し合いを続けた。意見が合わずにストレスを抱え、泣いてしまったこともある。誰かの持ち物が壊されたり、なくなったりした事件も起きた。そのたびに全員が意見を言い合い、気持ちを伝えて、なぜそうしてしまったのか、どうしたらいいのかを輪になって何時間も話した。仲間と別れるとき、一緒に暮らし、仲間であってくれたことに感謝した。本当の意味で一つの大きな家族になれたと感じた。この経験から、違いがあるのは当然と受けとめ、一緒に話して相手を理解することがとても大事だと学んだ。

今、世界はインターネットでつながっている。誰もがボーダーレスな地球に存在する地球人だ。国籍や人種、民族、宗教などの違いを越え、いろいろな人と意見交換することもできる。ネットの世界では、人と親しくなるのも、人の意識が変わるのも速い。

将来ジャーナリストになるのが私の夢だ。世界のいろいろな場所で実際に起きていること、そこで人々が考えていることや困っていることを世界にわかりやすく伝えていきたい。違いを越えて相手を尊重することの第一歩は、知ることだと思う。お互い地球人

として相手を思いやる心を持てば、もっと世界は住みやすく HAPPY な場所になるはずだ。

みんな地球人になろう！